
悲劇のお姫様 -funny

arisa*

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悲劇のお姫様 - funny

【Nコード】

N61030

【作者名】

arisa*

【あらすじ】

怖いのは皆同じ。

君の悲しみを肩代わり出来たら、君は笑ってくれるの？

……大丈夫。

くだらない社会とか、歪んだ世界とか、闇に飲み込まれた私だとか、かつこ良く聞こえる言葉をずらずらと並べて、まるで全てが分かっているような口を叩く、君。そんなにこの世界が憎いの？

「……」

目の前にあるのは、美しくきらびやかなドレスを身に纏った人形。それは、昔君がとても大切にしていたもの。

もう、今は存在さえ忘れているだろうけど。

もし僕が、君の痛みを背負ってあげられたら。……君は強がって、また痛みを背負い直すんだろう。

そんな事はどうでも良い。

僕が今一番願っているのは、君に笑ってもらう事、それだけだ。無理矢理にでも笑わせてみせる。僕は屋敷を出て、庭のどこかに居るであろう……君を探して、駆けた。

走り回る事数分。まだ君は見つからない。ただ闇雲に探していたからだろうか。

しばらく立ち尽くして、心当たりのある場所を考えてみる。そんな時、ぽつりと頬に一粒の雫が落ちてきた。

雨だ。

「……雨？」

雨は降り出したかと思うと途端に本降りになった。大粒の雨が、容赦なく地面へ降り注ぐ。

僕の体も、どんどん冷えていく。

……そうだ、思い出した。

そう言えばあの時、君と一緒にあの場所で雨宿りしてたっけ。すっ

かり忘れてた。

心当たりのある場所が見つかった僕は、そこに向かってまた走り出した。降り続ける雨が次々と僕の体を打つ。走る事数秒、庭の片隅にそびえ立つ大きな樹を見つけた。

あの樹の下に、君がいる。目で確かめなくても、僕には分かった。

昔遊んでいて突然雨が降ってきた時や、日差しが強かった時、二人であの樹に寄りかかって過ごしていた。少しずつ、樹に近づく。…

…やっぱり居た。僕の片割れが。

雨には濡れていないようで、ずっと樹の下にいたみたいだ。……僕は、
は、ず、ぶ、濡、れ、だ、け、ど、。

また悲しんでる。やっぱりこれからの事が怖いのか。……今度は絶望だの陳腐な言葉はぶつけないでほしいけど、この様子じゃ分からないな。

僕だって怖くない訳じゃない。むしろ、怖い。

「ねえ！」

「なに？」

「私たち、これからずっと一緒に生きていこうね。絶対だよ！」

「そうだね」

あの時君が言ってくれた言葉、忘れてないから。約束したから。君が悲劇のお姫様だろうとどうだって良い。ヒロイン気取りだろうと、何でも。そんなものは、これからすぐに消え失せて無くなる。君を大切だと思う時も、邪魔だと思う時もある。でも君は、何だろうと僕の片割れ——双子の姉だから。

こんな事、口が裂けても言えないな……そんな事を思いつつ、僕は濡れたままの体で、そつと君を抱きしめた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6103o/>

悲劇のお姫様 -funny

2010年10月31日06時08分発行